

島津久光『峨眉山月歌 李白』、二条齊敬『薄霜澄夜月』について

竹内加奈

同志社大学歴史資料館では、この度島津久光『峨眉山月歌 李白』、二条齊敬『薄霜澄夜月』を購入した。小稿は上記資料に関して簡単な紹介を行うものである。

① 島津久光『峨眉山月歌 李白』

これは中国唐代の詩人李白の作品を島津久光（一八一七—一八八七）が書したものである。久光は第二十九代島津家当主（藩主では十二代）島津忠義の父であり、「国父」として忠義の後見役を担い、幕末から明治にかけて実質的な薩摩藩の代表という重要な政治的立場にあった。

「玩古道人」は久光の用いた雅号の一つで、「玩古」とは「古（いにしえ）を玩（もてあそ）ぶ」という意味である。これは彼の復古的な考え方や、歴史を重んじる姿勢を象徴している。実際、彼は学問に熱心で、自ら歴史書「通俗国史」八十六冊を著した他、玉里文庫（鹿児島大学附属図書館及び鹿児島県立歴史資料センター黎明館所蔵）には中国の古典の漢詩集が多く所蔵され、久光自身が書写したものもある。久光に対して、藩主齊彬は晩年「若年より学を好む、今に至りては、博聞強記、わが及ばざる所、またその志操、方正嚴格、これもまたわれに勝れり。」と称賛したという。本書も久光の学問的関心を示す資料の一つである。

② 二条齊敬『薄霜澄夜月』

これは李白と同時代の中国唐代の詩人王維の「河南嚴尹弟見宿弊廬訪別人賦十韻」の一節を二条齊敬（一八一六—一八七八）が書したものである。落款には「立誠齋」の字が見られるが、これは易経に登場する「修辞立誠」（辞を修めて誠を立てる）からとったものだと考えられる。

齊敬は、幕末期の朝廷において、孝明天皇を補佐し公武合体の推進、尊攘派勢力の追放、条約勅許・長州処分問題などの処理にあたった人物。摂政・関白などの役職を歴任している。一方で、齊敬は水戸藩主徳川斉昭の姉従子を母に持ったため（徳川慶喜とは従兄弟関係）、朝廷のみならず幕府とも密接な関係を持ち、両者を結ぶ役割も果たすなど、幕末期の政局において重要な役割を担った人物の一人である。

参考文献

- 橋本政宣編二〇一〇『公家事典』 吉川弘文館
- 国史大辞典編集委員会編一九七九—一九九七『国史大辞典』 吉川弘文館
- 高津孝編一九九四『玉里文庫漢籍分類目録』 鹿児島大学附属図書館
- 玉里文庫目録作成委員会一九九六『玉里文庫目録』 鹿児島大学附属図書館
- 丸山松幸訳一九七三『易経』（中国の思想第七巻） 徳間書店

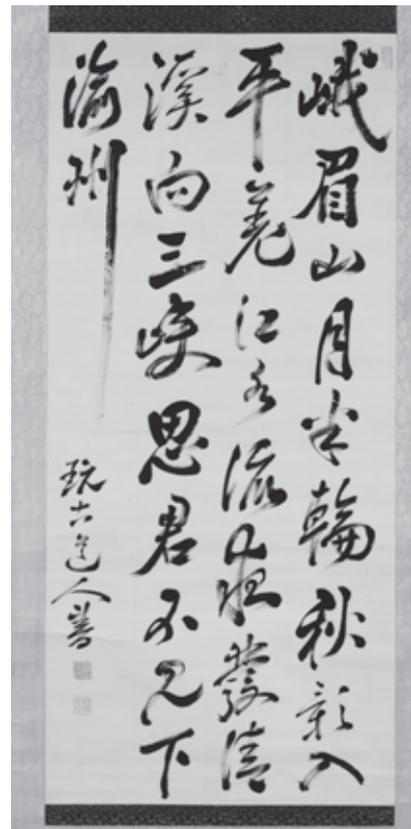


写真1 島津久光軸

【読み下し】

(印)

峨眉山月半輪秋影入

平羌江水流夜發清

溪向三峽思君不見下

渝州

(峨眉山月半輪の秋

影は平羌江水に入つて流る

夜、清溪を發して三峽に向ふ

君を思へども見えず渝州に下る)

玩古人書 (印) (印)

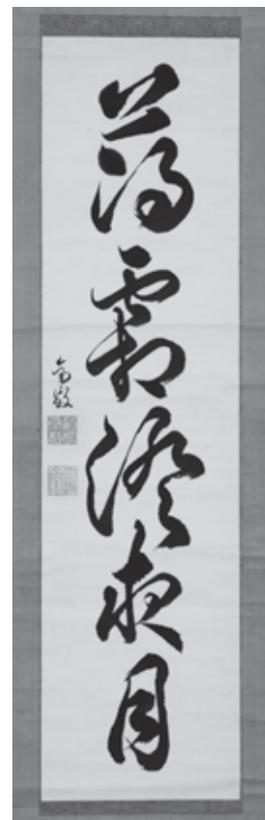


写真2 二条齊敬軸

【読み下し】

薄霜澄夜月

齊敬 (印) 「藤原齊敬」 (印) 「立誠齊」